

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立枚方なぎさ高等学校 全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none">・学校教育自己診断における生徒の授業満足度の向上・授業アンケートにおける「授業に対する生徒の意識」の向上・授業アンケートの教員平均値の上昇・外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上
計画名	「なぎさスマイルプロジェクト～授業に笑顔を～」

2. 事業目標及び本年度の取り組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 思考力・判断力・表現力など確かな学力を育成するため、教員の授業力向上を図る。</p> <p>(1) 授業力向上委員会が中心となって、「学校全体でめざす授業」を明確化し、「主体的で対話的な深い学び」を実践するため、アクティブラーニングやユニバーサルデザインの授業に関する情報を共有し活用する。</p> <p>(2) HR教室の電子黒板機能付プロジェクターやアクティブラーニングルームを有効に活用して、学校全体で ICT 機器を活用したアクティブラーニングやユニバーサルデザインの授業実践をすすめる。</p> <p>(3) 授業アンケートを有効に活用するとともに、研究授業や教員同士の授業観察等の活性化を図る。</p> <p>※ 生徒向け学校教育自己診断「楽しくて、わかりやすい授業が多い」を毎年3%引き上げて、令和4年度には70%以上にする。（平成29年度64.6%、平成30年度67.2%、令和元年度63.3%）</p>
事業目標	<p>※現状と課題： 本校は、授業で十分に生徒の力を伸ばし切れていない。そこで、生徒の確かな学力を育成するため、全教室に電子黒板機能付き超短焦点プロジェクターを設置し、以下の取り組みを行う。</p> <p>① 授業力向上委員会を設置し、「笑顔が広がる授業」や「わかりやすく楽しい授業」をめざして、ICT機器を活用した授業の全体計画を策定する。</p> <p>② パッケージ研修を通じて、アクティブ・ラーニングや授業のユニバーサルデザインに関する理解を深めるとともに、「生徒に付けたい力」「笑顔が広がる授業」「わかりやすく楽しい授業」の共通認識を図る。</p> <p>③ モデル授業者がICT機器を活用した研究授業を実践し、教職員全体で研究協議を行う。</p> <p>④ 各教科1名がICT機器を活用した研究授業を実践して全体化を図る。</p> <p>※評価指標： ① 生徒向け学校教育自己診断「楽しくて、わかりやすい授業が多い」(平成29年度64.6%)を毎年3%引き上げる。</p> <p>② 授業アンケート『興味・関心を持つことができた』『知識・技能が身に付いた』（平成29年度3.0）を毎年0.03ポイント引き上げる。</p> <p>③ 授業アンケートの教員平均値（平成29年度3.08）を毎年0.02ポイント引き上げる。</p> <p>④ 平成30年4月の値を基準に外部機関の客観的学力診断テストにおける3年生の国数英の偏差値平均を毎年1.0ポイント引き上げる（3年後までに3.0ポイント引き上げる）。</p>

整備した 設備・物品	普通教室（18室）への電子黒板機能付き超短焦点プロジェクター、壁掛け金具、無線LANユニット、配線工事費
取組みの 主担・実施者	授業力向上委員会 ・ 首席及びカリキュラムマネジメント研修受講者が組織を動かす ・ 構成メンバー：教頭、首席、カリマネリーダー、各教科代表者
本年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教室の電子黒板機能付き超短焦点プロジェクターを活用するなど、授業の「なぎさスタンダード」が形成されつつある。学校運営協議会委員による授業観察では、「教室に学びの空間が形成されており、本校教育の一層の伸びが期待できる」との評価を得た。 ・ 授業力向上委員会が主導する研究授業及び公開授業月間を機に教職員間の互見授業と相互評価を進めており、アクティブラーニングや授業のユニバーサルデザイン化の視点を含めて、一ランク上へと授業の質を高めるべく授業力向上の機運を全体化した。併せて、ICT機器の活用研修及びオンライン授業研修を6回開催し、オンラインによる効果的な授業実践について研究を深めた。コロナ禍にあって、授業スタイルなどが制限される中、「工夫ある楽しくわかりやすい授業」の現状を維持した。 ・ 教室の前面には掲示物を貼らないに加えて、私物を教室内に置かず個人ロッカーで管理するなど、全教室で「学びの環境」のユニバーサルデザイン化を進めた。 ・ 近隣中学校との授業交流について、感染症拡大防止のため実施できなかった。
成果の検証方法 と評価指標	<ol style="list-style-type: none"> ① 生徒向け学校教育自己診断「楽しくて、わかりやすい授業が多い」（R1年度63.3%）を74%以上とする。 ② 授業アンケート『興味・関心を持つことができた』『知識・技能が身に付いた』（R1年度3.16）を0.03ポイント上昇させ、3.19とする。 ③ 授業アンケートの教員平均値（R1年度3.27）を0.03ポイント上昇させ、3.30以上とする。 ④ 外部機関の客観的学力診断テストにおける3年生の国数英の偏差値をR1年度4月比2.0ポイント引き上げる
自己評価	<ol style="list-style-type: none"> ① 生徒向け学校教育自己診断「楽しくて、わかりやすい授業が多い」は63.6%で、前年度比0.3%増加したものの、3年めの目標の74%には届かなかった。……………（△） ② 授業アンケート『興味・関心を持つことができた』『知識・技能が身に付いた』は3.24で、0.08ポイント上昇した。……………（○） ③ 授業アンケートの教員平均値は3.33で、0.06上昇した。……………（○） ④ 外部機関の客観的学力診断テストにおける3年生の国数英の偏差値は、R1年度4月比0.9ポイント上昇だった。……………（△）
事業のまとめ	<p>生徒による学校教育自己診断では、「学校生活は充実している」「この学校に来てよかった」「先生は信頼できる」「進路指導は適切に行われている」「先生の指導は納得できる」「先生は悩みや相談に丁寧に応じてくれる」「学校は生徒が困っていることに真剣に対応してくれる」などの項目で、昨年度比に上昇がみられたり、高い数値を維持したりしている。本校の教育活動が概ね生徒に受け入れられており、安心・安全な学習環境が提供されているなど、自校の良さとして評価されているものとする。本校の学校力の強みとして理解できるものである。</p> <p>しかしながら、「授業以外での学習時間は1日平均1時間以上である」が27.1%と極めて低く、過去5年の数値は横ばい状況にある。この項目こそが本校の生徒の学習活動の弱みを示しており、今後本校の教育活動が向かうべき課題であると理解している。教職員の「担当する授業で必要な量の宿題を課している」が64.2%と振るわないことがその解決策の一端を表しているものとする。</p> <p>以上から、本校の直近の課題として、「楽しくてわかりやすく、『工夫』のある授業」を実践しつつ、生徒個々の自主的学習への意欲を喚起し、家庭学習時間の増加を図ることが第一であり、そのための具体的な仕掛けづくり、仕組みづくりが急務であると言える。</p>

本事業によって全教室に設置された電子黒板機能付き超短焦点プロジェクターは、まさしく本校の喫緊の課題を克服するための仕掛けづくりの第一歩となった。教員の授業力向上はもとより、ひいては、生徒の確かな学力の形成に向けて著しい効果が期待されるものである。今後も引き続き、「学びの空間」の維持と充実を意識しつつ、「授業の質の高さ」を求める教員全体の機運をより確かなものとして、本事業計画の目標である「生徒の学力の充実」に取り組んでいきたい。